

「 「前例のない」今、できること 」

宮崎県 延岡市立延岡中学校 3年 伊藤 芽咲

「え！トイレの水、流れんけど!?!」

「道路が水浸しになってる！」母と祖母の大きな声を聞き、あわてて外を見てみると、家の前の道路が、まるで川。初めて見る光景に、理解が追いつきませんでした。昨年の10月、延岡市で1時間に120ミリ前後の猛烈な雨が降ったとき、家の前の道路が冠水していました。幸い、家や車に被害はありませんでしたが、短時間の雨でもこんな風になってしまうのかと衝撃を受けました。

延岡市の他の地域では、土砂崩れに巻き込まれて亡くなった方がいたり、土砂が住宅に流れこんだりなど、あちこちで被害が出ていました。土砂災害は簡単に人の命を奪ってしまうものなのだと改めて恐ろしく感じました。

最近、土砂災害のニュースなどを目にするのが多くなったように感じ、調べてみることにしました。すると、土砂災害の発生件数は、昔に比べ増加していることが分かりました。年間平均1500件程度発生しており、私が思っていたより多く、驚きました。土砂災害が増加している要因として、大きく2つ挙げられます。

1つ目は、放置される人工林の増加です。現在、林業を担う人が高齢化していたり、若者の林業離れにより後継者が不足していたりすることにより、多くの人工林が放置されています。手入れの行き届いていない木の多い山の表面は、日光が届きづらくなり、草木の根が張らないので、土が痩せていきます。そのような土地で大雨や台風が発生した場合、根が水を吸いきれず、土砂崩れなどが起こりやすくなってしまいます。また、過度な森林伐採も土砂災害のリスクを高めてしまいます。土砂災害と林業はこのように密接な関わりがあることを初めて知りました。

2つ目は気候変動です。近年、気候変動などの影響により、自然災害はどんどんひどさを増しています。それにより、広範囲かつ大規模な土砂災害や同時多発する局所的な土砂災害が頻発しています。私は、土砂災害の発生件数は、将来、もっと増えていくのではないかと思いました。

では、私たちは土砂災害に対してどのような対策をしていけばよいのでしょうか。私の住んでいる市では、昨年の豪雨を受けて、優先開設避難場所が市内に13か所開設されました。優先開設避難場所とは、警戒情報が出てから早い段階で開設される避難場所のことです。状況に合わせて早めに避難ができるのが特徴です。しかし、そのためには、今いる場所の情報をきちんと確認、把握する必要があります。私は、自分の住んでいるところで、一定量の大雨が降ったときに通知してくれるアプリを入れていますが、今まであまり使っていませんでした。しかし、土砂災害の被害に遭わないように、このような情報をきちんと活用したいです。

また、避難経路の確認をすることも重要です。傾斜が緩いか、橋梁がないか、山際でないかなど、避難場所に行くまでの道のりにも気をつける箇所がたくさんあります。自分の住んでいる地域のハザードマップを見て、避難経路の近くに危険な場所はないかどうか確認しておくべきだと感じました。

令和7年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 銅賞

私の自宅の近くには山はありません。そのため、「土砂災害」と聞いてもどこか他人事のような感覚がありました。しかし、ハザードマップを改めてきちんと見てみると、私の通っている塾や親戚の家が土砂災害警戒区域に入っていることを知り、驚きました。ハザードマップを確認することの重要性を感じました。

土砂災害への対策は、行政でも行われています。しかし、一番重要なのは、私たち一人一人が防災意識を持ち、自分に今できることを考えて行動することだと思います。「今まで大丈夫だったから。」が通用しなくなりつつある今、求められるのは、最新の情報を積極的に収集することです。自分の住んでいる地域ではどのような取り組みがされているのか、家だけではなく、学校や出かける場所、さらにその周辺に危険な場所はないかなど、アンテナを張り「自分は大丈夫。」と思わず、自分ごととして捉えることが必要だと考えます。もし身近に高齢者や幼い子供など、素早く避難するのが難しい人がいたら、早めの避難も視野に入れておくなど、家族のことも考えて、土砂災害への対策について、普段から意識していきたいです。

前例のない規模の災害が頻発する今、身近にできることはたくさんあるはずです。一人一人が意識を高く持てば、「前例のない」災害も被害を減らせるのではないのでしょうか。